

黒と咲

霞み

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「誰かを好きになる」

人はいつの間にもその罠に墜ちるのか。

人生のパートナーを国が決める世界。

それは希望であり、絶望であった。

暗部の仕事をして暗部の長と呼ばれる「黒川悠斗」は普通の学校に通って普通にクラスメートと話すのが夜になれば・・・暗部の仕事がある。

小学生の頃、一度だけ黒川悠斗と同じクラスになって席が偶々隣同士になった「高崎

美咲」。黒川悠斗から消しゴムを貰ってから目で追ってしまうほど好きになっていた。ただ。直接話したことが無いまま高校生になってしまった。

出会いは必然と言うのなら、恋は偶然なのか

この恋が罪だと言うのなら・・・全てを捨てても君を選ぼう。

~~~~~

どうも。うp主の霞みです

今回は「恋と嘘」を書いていきます。

読み初めて2日。頑張って書いていきます！

# 目次

|           |        |   |
|-----------|--------|---|
| プロローグ     | 黒との出会い | 1 |
| 第1恋 君をずっと |        | 6 |

## プロローグ 黒との出会い

最初は無愛想で暗い子だと思った。

でも、その考えは間違えてた。彼は余り感情を出さないだけで暗いと言うか普通の子だった。

それに、彼が私だけに見してくれる優しさ。そんなところに私は惹かれたんだ。

私以外に優しくする彼なんて見たくない。ましてや私以外の女の子に優しくする彼なんて。

彼の優しさは私だけの。彼の良いところを知ってるのも私だけ。

だけど、不安もある。

もし16歳になった彼に政府通知が来て私以外の女性の名前があつたらって考えたら凄く不安になる。

彼はどう考えてるのかな。

北箕面崎高等学校 美咲 side

美咲「……………／／／」

私は高崎美咲。何処にでも居る普通の女子高生です。

でも一つ違うのが5年前から片思いしてる男子が居る。

その人は無愛想で暗いって思う人も居るけど私も昔はそうだった。でも5年前から見方が変わった。

彼は不器用なだけで凄く優しい人だった。

玲奈「美咲? どうかした?」

美咲「え? な! 何でもないよ♪あはは／／／」

絢乃「ほんとにくく? 何か男子の方見てなかった?」

この二人は加藤絢乃ちゃんと相生玲奈ちゃん。私の友達。

たまに私が彼の事が好きなの張れそうになる

美咲「ほんとに何でもないよ♪／／／」

でも。本当はもつと近くで彼を見たい。彼に触れたい。

由佳吏「ねえ! 黒川!」

彼に話し掛けてるのは根島由佳吏君。中学校の時に告白されたけど私は彼が好きだ

から断った。

悠斗「・・・五月蠅い。」

そして彼が私の想い人の黒川悠斗君。遠目でもわかる銀色の髪をしてる。

由佳吏「酷い！」

悠介「いや。マジで五月蠅いから。」

クラスの子に人気の二坂悠介君。私は何で人気か疑問だけど？

悠斗「ん？」

美咲「あ！／＼／＼」

私は黒川君と目があつて反らしてしまった。だつて恥ずかしいもん。

美咲（黒川君。やっぱり格好いいな／＼／＼）

なんだかんだで二坂君と黒川君で学校のイケメンランキング一位と二位何だよ

ね。・・・何で黒川君が二位なのか納得いかない。

玲奈「ねえ？美咲って黒川君の事どう思う？」

絢乃「そうだよね♪美咲はどう思ってるの？」

どうってそんなの

美咲「優しくって頼りになる人かな？（それに格好いいが着くけど／＼）」

でも。1度も直接話したこと無いんだよね。

玲奈「ふーん。黒川！」

悠斗「?何か用事が相生？」

玲奈ちゃん!何で黒川君呼ぶの!どうしよう!変じゃないよね!あ!髪が少し乱れてる!

絢乃「それがさく♪美咲が黒川君と話したい事があるんだってさく♪」

絢乃ちゃんも便乗しないで!き・きん・緊張して何を言えば良いかわからなくなるよ

!////

悠斗「そうなのか?高崎？」

美咲「う・うん。す・少しだけい・良いかな?////」

悠斗「ああ。」

やった!

美咲「あ・あの・黒川君の・お弁当って自分で・作ってるの?」

悠斗「そうだけど。家に両親が居ないからな。小さい頃からやってたら慣れた。」

そうなんだく♪黒川君の両親は仕事かな?

美咲「じ・じゃあ・黒川君の・た・誕生日とか教えて・くれないかな?」

悠斗「俺の?まあ良いけど4月14日だけど。」

え?4月14日!ど・どうしよう!私と同じ!もうこれは運命だよ!



美咲「私も同じ！嬉しいな♪」

こうして私は黒川君と初めて話をした

# 第1恋 君をずっと

北箕面崎高等学校 放課後 美咲 s i d e

美咲（黒川君に政府通知が来たら・・嫌だなく〜。）

お母さんは一度だけ政府通知で結婚したことが有るって言ってたっけ。

でも上手く行かなくて離婚して今のお父さんと結婚したって。

美咲（もし・・政府通知が絶対に幸せになるって事じゃないなら・・私は諦めない。黒

川君は・・絶対に諦めないから。）

政府の人は駄目だとか言うと思う。

でも、そこには本人の気持ちが反映されてない。

そんなの

美咲「幸せなんて言わないツス。」

私は政府通知じゃなく黒川君と付き合いたい。

ちゃんとお互いの事を知ってから結婚したい。

そして何時かは子供だって欲しい。

美咲「でも。黒川君が私の事をどう思ってるのかな？」

嫌われてたら・・・うん。休み時間で話したけど嫌われてるって感じじゃなかった。美咲「よし！これから頑張つて黒川君を振り向かせよ！諦めたくないし。」政府通知なんて無くなれば良いのに。あ。そろそろ帰らないと。

玄関

美咲「あ。黒川君。」

悠斗「よ。高崎。今、帰るなら送るよ。」

私が玄関に来たら。黒川君が居て、一緒に帰ろうと言ってくれた。

美咲「うん／＼／＼お願い／＼」

悠斗「帰るか。」

これってアピールするチャンスだよ！ちゃんと異性として見てもらう為のチャンスだよ！

## 通学路

美咲（ど！どどどどどどうしよう！なに話せば良いかな！黒川君とあまり話してないから何を話したら良いかわからないよ！）

悠斗「なあ。高崎は政府通知をどう思う？」

え？政府通知？

美咲「私は政府通知なんて無くなれば良いと思ってるよ。だって恋愛が決められてるっておかしいよ。」

悠斗「・・・俺と同じだな。俺も政府通知なんて無くなれば良いと思ってる。本当に好きな人と付き合えないし結婚出来ないからな。」

本当だよ。なんで政府通知なんて作ったのかな。

悠斗「高崎の所はもう来たんじゃないのか。政府通知。誕生日過ぎてるだろ？」

やっぱり学校とかで誕生日のこと言われてるから知ってるよね。・・・勝負に出よう！

美咲「確かに来たよ。でもね。私は断ろうと思う。」

だって私・・・黒川君が好きだから。」

悠斗「高崎。俺も「黒川・・・悠斗さんですね。」はあ。誰だ？」

「私は政府の者です。政府通知を「ああ。政府通知ね」はい。どうぞ。」

黒川君。政府通知受けとるのかな？

悠斗「政府さんよ。俺は受け取らないぜ。俺は自分で好きな人は決めたいからな。」  
「それだと貴方の進路も「関係ない」何故ですか？」

悠斗「俺には職があるからな。それに俺に政府通知が来ること事態あり得ない。」  
「どう言うこと？もしかして黒川君の両親は政府通知の依頼をしてない？」

悠斗「俺の両親は政府が大嫌いだからな。政府通知依頼をしないし、やるわけがない。  
それに10人中1人は政府通知を断ってる。」

政府通知は確実じゃない。だ・か・ら。」  
黒川君は私を抱き寄せて

悠斗「俺は高崎美咲と一緒に居る。俺を好きだと言ってくれた美咲と。ちゃんと付き  
合って結婚する。」

黒川君。

美咲「私も彼と一緒に良いです。他の人なんて考えられないです。悠斗君以外なんて  
嫌です。」

私も悠斗君に抱き着いて言った。

「.....」

悠斗「俺らは決めた。もしまた来たら今度は許さない。俺と美咲の幸せを邪魔するな

ら誰であろうと。」

「・・・わかりました。」

政府の人は帰っていった。

美咲「言っちゃったね。」

悠斗「これで良いんだ。俺は俺の意思に従っただけだ。美咲とずっと居たいんだよ。

美咲は違うか？」

美咲「私もずっと悠斗君と居たい。だから・・・これから宜しくね♪悠斗君♪」

こうして私と悠斗君の恋が始まった